

五十嵐明要 (いがらし あきとし)

1932年 東京都中央区八丁堀生まれ。日本ジャズ界偉才のアルト・サクソフ・プレイヤー。「シャープス&フラッツ」「ブルーコーツ」「小原重徳とジョイフル・オーケストラ」と、一貫してビッグ・バンドのコンサートマスターを務めた。その一方で、実兄の五十嵐武要(たけとし)(ドラムス)と共に、自己のバンド「ザ・聞楽亭(ぶんらくてい)」を結成し、現在も多岐にわたり活躍中である。

その人間味溢れる感性と、豊かな表現力に支えられた円熟のプレーに対して、数多いジャズ・アルト・サクソフ奏者の中で“ONE AND ONLY”と尊称されている。また、レパートリーも幅広く、スウィング・ジャズ、モダン・ジャズはもとより、カクテル・ミュージック、ダンス・ミュージックにまで及んでいる。

1989年には、世界で最も権威あるジャズ・フェスティバル「アメリカ・モンタレー・ジャズ・フェスティバル」から正式に招かれ、わが国ジャズ界の代表として出演し喝采を博した。1992年には、「ロサンジェルス国際ジャズ・フェスティバル」に北村英治(クラリネット)と共に招かれて出演。1994年には、歴史的な「JAPAN JUST JAZZ ALL STARS」の一員としてニューヨークのアポロ・シアター及びカーネギー・ホールに出演。2001年5月、オランダの「ブレダ国際ジャズ・フェスティバル」に招聘され、絶賛を受けた。

音楽生活57周年を迎える五十嵐明要の活躍に対し、今、国内外を問わず大きな期待と注目が寄せられている。自己のリーダー・アルバムは多岐に及ぶが、最近の自己CDアルバムは、「SAX TALK」「SWING TIME」「HERE AT LAST」「WE3+THREE Salute to Sir Duke」「ALL OF ME」「SATIN DOLL」などがリリースされている。

年表

- 1932年 6月2日 東京中央区八丁堀で、5人兄弟の末っ子として生まれる
- 1948年 高1の夏休み、丸の内ホテルのバンドボーイとしてジャズ界へ
- 1949年 歌舞伎座隣のクラブ・エデンのディキシー編成のバンドでプロ入り
- 1951年 渋谷・道玄坂 フォリナークラブの松下彰孝(d)バンド「メトロ・トーンズ」へ
- 1952年 沢田駿吾(g)の「ダブル・ビーツ」へ
- 1956年 高見健三の「ミッドナイト・サンズ」へ
- 1957年 西条孝之介(ts)の「ウェスト・ライナーズ」へ
- 1960年 原信夫(ts)の「シャープス&フラッツ」へ
- 1967年 「ブルーコーツ・オーケストラ」へ
- 1978年 小原重徳の「ニューオータニ・ジョイフル・オーケストラ」へ
自己のバンド「ザ・聞楽亭」を結成 (実兄の五十嵐武要(d)と)
- 1986年 初リーダーアルバム「SAX TALK」を録音
- 1989年 アメリカ モンタレー・ジャズ・フェスティバルに出演
- 1992年 ロサンジェルス 国際ジャズ・フェスティバルに出演
- 1994年 ニューヨーク アポロ・シアター、カーネギー・ホールに出演
- 2001年 オランダ ブレダ国際ジャズ・フェスティバルに出演
- 2004年 原田イサム(d)と双頭の「横浜ロイヤルパーク・オーケストラ」を結成

オフィシャル・サイト <http://altosax.igarashi.cc>

携帯サイト <http://altosax.igarashi.cc/i>



携帯用 QR コード